

# 順天堂医院ニュース 2025 NO.92

## ウィーン少年合唱団コンサートについて

2025年5月4日(日)に癒しの会にてウィーン少年合唱団によるコンサートを行いました。

コンサートでは、ヨハン・シュトラウスⅡ世の《皇帝円舞曲》、中山晋平の《ゴンドラの唄》、ディズニー映画『ジャングル・ブック』より《君のようになりたい》、そして《美しく青きドナウ》をアレンジした《青きドナウのブルース》など、日本の名曲をはじめとして、親しみのあるレパートリーが披露され、会場は笑顔に包まれました。混乱を避けるため、ウィーン少年合唱団の出演は直前まで伏せていた中でも、たくさんの入院患者さんにお集まりいただき、ボランティアの職員も一緒に少年たちの美しい歌声に、癒しと喜びを分かち合いました。



各記事にあるQRコードを読み込むことで、各診療科および各部署のHPを開くことができます。ぜひ、ご活用ください。



## ● パーキンソン病センター開設について ●

2025年4月1日よりパーキンソン病センターを開設することになりました。パーキンソン病は全国で29万人程度もの患者さんがいらっしゃるとう報告されています。高齢になると発症しやすいため、日本だけではなく世界的にも患者さんの数が爆発的に増えてくると警笛が鳴らされています。この病気は運動機能に影響が出るだけでなく、認知機能障害や自律神経機能障害など症状が多彩になるため、生活の質に大きな影響が出ます。治療はLドパ製剤を中心とした薬物療法ですが、症状が進行すると内服する薬のみでは治療が難しくなり、脳深部刺激療法やデバイスを用いた持続的薬物治療など、専門的な治療が必要になります。さらに、運動機能を回復させるためには理学療法、言語療法、作業療法などのリハビリテーションが重要になります。順天堂大学脳神経内科は伝統的にパーキンソン病診療に力を入れてまいりましたが、パーキンソン病センターとしてより専門的に患者さんの診療を開始いたします。



センター長  
波田野 琢

当センターでは、複雑な治療になっているパーキンソン病患者さんがスムーズに診療を受けられるようなシステムを構築しております。具体的にはパーキンソン病を専門に診療する医師が初診を担当し、脳深部刺激療法などデバイス補助療法の適応を定める専門外来を設立します。そして、脳神経外科、リハビリテーション科、メンタルクリニック、食道・胃外科、皮膚科などと連携します。また、難病であるが故に、公的サービスの導入、療養指導が重要になるため、専門看護師による相談支援外来も行います。当センターによる、専門的かつ包括的なパーキンソン病診療を通じて、一人でも患者さんが笑顔になれるようにいたします。



## 頭頸部がんセンター

頭頸部がんは、鼻腔、口腔、咽頭、喉頭や顔面などに発生するがんのことです。解剖学的に非常に複雑な部位のため、治療にはこの領域に特化した高度な専門知識と技術が求められます。がんは生命に関わる疾患であり確実に根治を目指すことが最優先の課題であると同時に、頭頸部は食べる、飲む、話す、呼吸する、さらには外見にも関わる重要な部位です。そのため単にがんを治すだけでなく、治療後の生活の質（QOL）を維持し、患者さんが自分らしく生きていけるよう支援することも不可欠です。近年、頭頸部がんの診療は医療技術の進歩に伴い、飛躍的に発展しています。より専門性の高い診療が求められる中で、本センターでは最新の治療法を取り入れ、各診療科が連携しながら総合的な医療を提供してまいります。がんをしっかり治すことを最優先にしながら、治療後の QOL を維持し患者さんが「治った後もその人らしく生きられる」ことを目指します。

本センターは東京都内にとどまらず、日本全国、さらにはアジアを中心とした海外の頭頸部がんでお困りの患者さんにも積極的に医療を提供してまいります。国境を越えた診療体制を整え、専門性の高い医療を必要とするすべての方々に最適な治療を届けることを目指します。頭頸部がんに関する不安や疑問をお持ちの方は、どうぞお気軽にご相談ください。

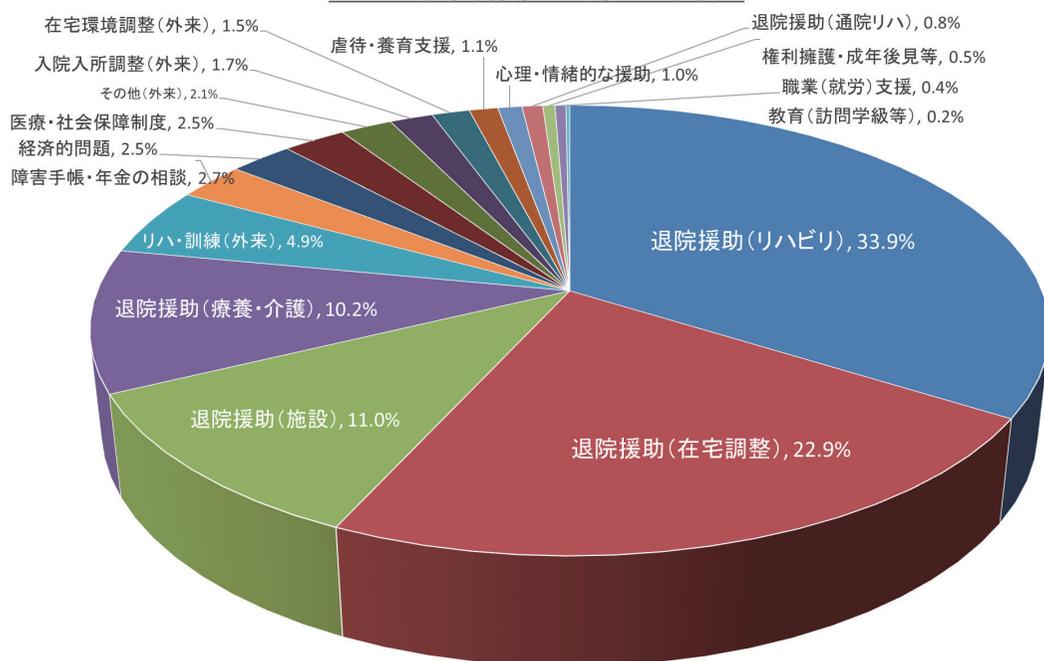




## 2024年度 医療福祉相談室 相談内容について

当院にはいくつかの相談部門がありますが、「医療福祉相談室」では、治療・療養生活に伴って生じるさまざまな心配事に対して、医療・社会保障制度や福祉サービスを活用しながら解決に向けたご相談に応じています。当室で昨年度受けた相談延べ取扱件数は24,182件（2023年度：20,957件）でした。相談内容の内訳は下記の図の通りです。当室では、**退院援助**（リハビリテーション目的、療養目的の転院や介護施設への入所、在宅医療や訪問看護の利用等）のご相談が78%を占めています。他には、**外来で通院中の方の環境調整**（リハ・訓練、入院入所調整や在宅環境調整）、**障害手帳や年金の相談、経済的な相談、医療・社会保障制度**など、相談内容は多岐に渡っています。特筆すべきは、**経済的な相談**件数が、390件（2023年度）→615件（2024年度）と約1.5倍に、**虐待や養育支援**に関する援助件数が86件（2023年度）→277件（2024年度）と約3倍に増加していることがあげられます。治療と仕事の両立の困難さを抱える中での**経済的な相談**や、**虐待・出産育児**に対する**養育支援**についての院内外からの相談が、年々増加しています。

### 2024年度相談内容別割合



当室でのご相談を希望される場合は、事前にご予約をお願いいたします（電話でも来室でもご予約可能です）。

なお、入院中の患者さんの退院先に関する相談、通院中の患者さんの在宅医療や訪問看護等の療養に関する相談については「患者・看護相談室」とともにご相談に応じており、入院病棟や診療科ごとに担当者を配置しています。ご相談を希望される場合は、まずは、担当医または病棟の看護師にその旨お声かけ下さい。



## 入院や検査の準備をわかりやすくサポート！ LINEでご案内「ポケさぼ」導入しました

このたび看護部の取り組みとして、患者さんが安心して検査や入院に臨めるよう、LINEを使った新しい説明サポートアプリ「ポケさぼ<sup>®</sup>（運営会社：株式会社 OPERe）」の運用を始めました。

「ポケさぼ」は、事前に登録した検査日や入院日をもとに、LINEから必要な準備や持ち物、生活の注意点、説明動画などをお届けするサービスです。外来や入院支援センターなどで登録をご案内しており、ご自宅にいながら内容を繰り返し確認できるため、「何を持って行けばいいの?」「検査前の薬はどう飲むの?」「入院や検査まで、どんな生活に気をつければいいの?」といった疑問に対して、LINEから情報を受け取ることで、準備を安心して進められるようサポートします。

現在は、以下の3つの場面で運用しています。

- ・ 大腸内視鏡検査（外来で検査を受けられる方）
- ・ 入院案内（入院前の手続き・入院の準備）
- ・ 術前外来（入院して手術を受ける方のうち、麻酔に関する診察や説明を受ける方）

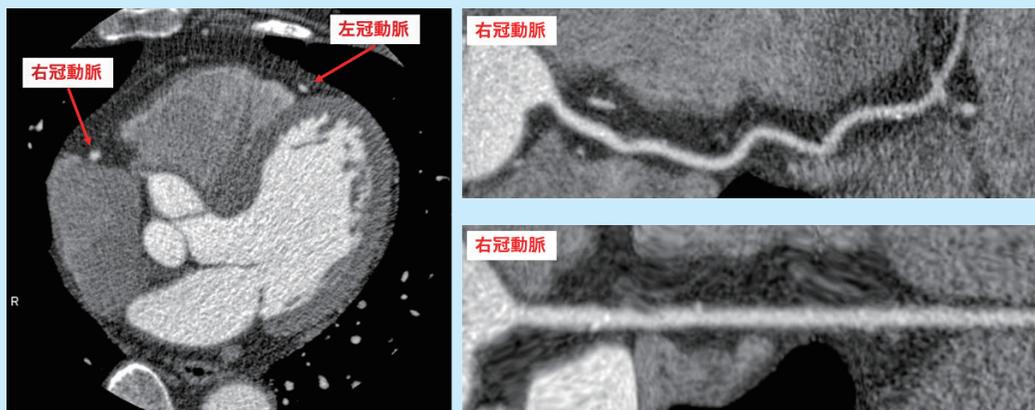
スマートフォンやご家族の端末でもご利用可能で、動画や資料をいつでも見返すことができます。わかりやすく、入院や検査の準備をサポートするしくみとして、ぜひご利用ください。



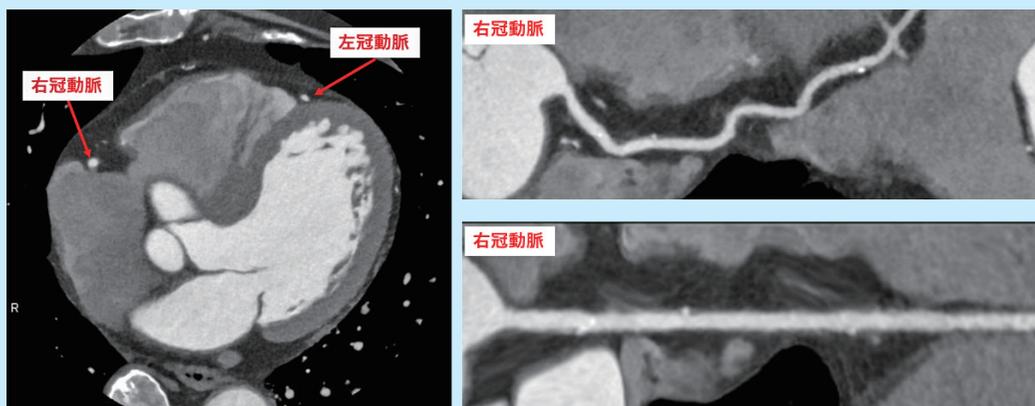


## AIで進化する冠動脈CT ～被ばくを減らして高画質に～

心臓を栄養する血管（冠動脈）のCT検査は冠動脈疾患に対する診断での第一選択として推奨されることが日本循環器学会のガイドラインにて報告されています。冠動脈CT検査は詳細な構造を観察するために多くのX線量が必要とされ、以前より被ばく線量が多いことが問題となっていました。X線CT検査においてX線の量を多くすることで画質が良くなりますが被ばくが増えます。これまでの冠動脈CT検査では低被ばくを目的とすると画質の低下（画像ノイズの増加）が避けられませんでした。近年開発されたコンピューターによる人工知能（AI）技術、深層学習（ディープラーニング）を用いた超解像画像再構成では、高画質かつ画像ノイズの少ない画像を教師画像（ディープラーニングにおいてAIが学習するための手本となる画像データ）、つまり診断における理想的な画像をコンピューターに覚えさせAIがディープラーニングを行う事でX線の量が少なくても理想的な画質とすることが可能となりました。この技術を用いることで冠動脈CTにおいてより詳細な画像診断および被ばくの低減が期待されています。



従来の冠動脈CT画像  
画像ノイズが多く、ザラザラとした画質となっている



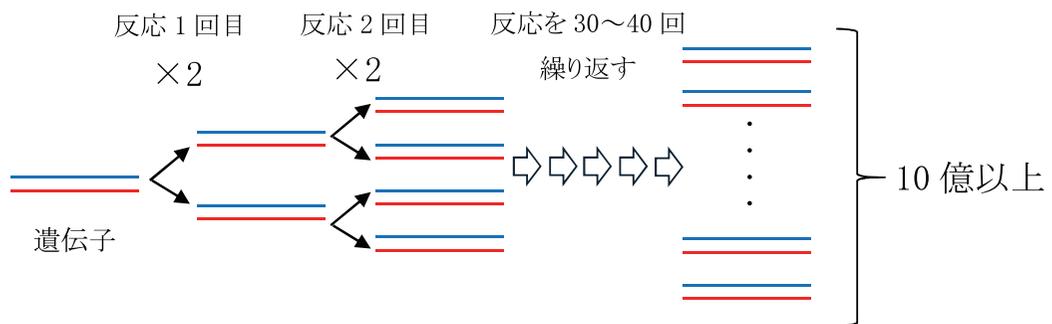
ディープラーニングを用いた超解像画像再構成の画像  
高画質かつ画像ノイズの少ない理想的な画像となっている



## コロナだけじゃない！PCR 検査ってどんなもの？

新型コロナウイルス感染症の流行により広く知られるようになった PCR（ポリメラーゼ連鎖反応）検査は、ポリメラーゼという酵素を用いて特定の遺伝子を増やして、ウイルスや細菌に感染しているかどうかを調べる方法です。下の図のように PCR 検査では、1 回の反応で遺伝子の数が 2 倍に増えます。この反応を繰り返すことで、最終的に遺伝子の数が 10 億以上に増えます。そのため、わずかな量の遺伝子でも検出できるため、さまざまな感染症の診断に活用されています。一方、PCR 検査には注意点もあります。感度が非常に高く、すでに感染力を失ったウイルスの痕跡も検出するため、陽性であっても必ずしも他人に感染させる力があるとは限りません。そのため、検査結果の解釈は他の情報とあわせて慎重に判断します。

図 PCR による遺伝子の増え方



PCR 検査は感染症の診断だけでなく、白血病という血液のがんの診断や治療にも用いられています。白血病では、特定の遺伝子に異常があることが多く、それを PCR 検査で見つけることができます。これによって、白血病の種類がわかり、より適した治療を選ぶことができます。

PCR 検査の技術は進化を続けており、今後も感染症や白血病をはじめとするさまざまな病気の早期発見や治療に役立つと期待されています。



今日からはじめる

健康講座



7  
月号



総合診療科 教授  
小林 弘幸

## 迷走神経の不思議

小暑の候、いかがお過ごしでしょうか。近年は気候変動の影響で気候が安定せず、この時期に体調がすぐれない方も多いかもかもしれません。気圧や気温は自律神経と密接に関わっているため、不安定な天気は自律神経を乱して頭痛、倦怠感、めまい、眠気など様々な不調を引き起こします。

自律神経にはアクセル役の交感神経とブレーキ役の副交感神経があり、この2つがうまくバランスを取ることで身体の機能をコントロールしています。特に副交感神経の中核となる迷走神経は、心臓、肺、胃腸などに分布し、脳と内臓を双方向につなぐ重要な神経回路です。消化器系と精神状態は密接に関係しており、「腸は第二の脳」と言われるほどの関係性を持っています。ストレスを感じると、食欲の低下や、おなかの調子が悪くなる経験がある方も多いのではないのでしょうか。迷走神経の活動を高めることで、ストレスや不安の軽減、免疫力や睡眠の質の向上することも分かってきています。

迷走神経の活動を高める、すなわち自律神経を整えることで気候の変動にも影響されにくくなります。まずは、起床時間と就寝時間を一定に保ち、朝起きたら太陽の光を浴びるよう心がけましょう。体内時計をリセットできます。また、深呼吸でしっかりと息を吐くことで、心拍数が下がり、迷走神経が刺激されて副交感神経が優位になります。これらを日常生活に組み込み、毎日を快適に過ごしたいものです。

順天堂大学医学部附属順天堂医院

〒113-8431 文京区本郷3-1-3

TEL : 03-3813-3111 (大代表)

編集 事務部 管理課

発行 事務部 管理課 (2025年7月発行)

ホームページ

<https://hosp.juntendo.ac.jp/>

順天堂医院

検索



【順天堂医院HP】